

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	NPO 法人東京学芸大 子ども未来研究所
園名	学芸の森保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

『染める』

<テーマの設定理由>

春の散歩中に見つけた桑の実を「お散歩バック」に入れたところ、桑の実がつぶれて、子どもたちの手や服に色が付いたことに気が付き、関心をもった。そこで、「色がつく」「染まる」をテーマに子どもたちの活動を展開していく計画を立てた。

### 2. 活動スケジュール



4月、5月…桑の実ジュース  
6月、7月…色水遊び  
8月…しみ絵  
9月…STEAM 活動「染み込む」  
10月…Tシャツ染め(染料)  
11月、12月…草木染め(枇杷の葉)

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定


- ・桑の実ジュース（ビニール袋、桑の実、他の草や実などの自然物）
- ・色水遊び（絵具、食紅、タライ、透明カップ、傘袋、筆、スプーン、霧吹き、お花紙、テーブル、寒天）
- ・しみ絵（和紙、キッチンペーパー、コーヒーフィルター、水性ペン、画用紙）
- ・Tシャツ染め（染め粉、ブルーシート、Tシャツ、手袋、輪ゴム、おはじき、ビー玉、ペットボトルの蓋）
- ・草木染め（講師の先生、ブルーシート、巾着、枇杷の葉、鍋、タライ、大きな容器、媒染液、輪ゴム、割りばし、ビー玉）

#### 4. 探究活動の実践

<活動の内容> <活動中の子供の姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

時期	活動	子どもの様子
4・5月	桑の実ジュース	<p>・春探しの散策中に、桑の実を見つける。持参したお散歩バック（ビニール袋）に入れる。</p> <p>持ち帰る最中につぶれてしまい、袋内が桑の実で汚れる。3歳児が汚れたことを嫌がり泣く。それを見た5歳児が「水で洗ったら大丈夫だよ！」と提案。保育者に洗う場所を尋ねる。その場には水道がなかった為、帰園後5歳児が洗ってあげていると袋に入れた水が色着いたことに気が付く。</p> <p>その日から、散歩先で木の実を集めたり、草をとったりして水を入れる色水遊びが流行。桑の実採取の際には手も赤紫に染まることに気が付く。</p> <p>★ドキュメンテーション①に掲載</p>
6・7月	色水遊び	<p>上記のエピソードをきっかけに色水遊びが活発になっていた姿をきっかけに、保育者が日替わりで様々な材料を準備する。（絵具、食紅、お花紙）</p> <p>始めは、服を気にせず遊び込む。色の混ざり方や色の違い、割合によって変わる混ざった色など様々な楽しみ方をする。ある日、白い服の子が「お洗濯しても落ちなかったの…」と保育者に服を見せてきた。次の日から子どもたち自身が“汚れてもよい服”を保護者や友だちと話す姿が多くなった。絵具や食紅も手に残ったり、布が染まったりすることにも気が付き始める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
8月	滲み絵	<p>夏の製作時に子どもたちから色水を使って製作ができないかな？と意見が出た。保育者間でまだ使っていない材料でできないか？と話し合いをし、霧吹きと水性ペンを使った滲み絵をすることにした。画用紙、和紙、キッチンペーパー、コ</p>

		<p>ーヒーフィルターなどを準備して製作をした。          子どもたちはじわっと色が広がる様子を見て「広がった！」          「染み込んでる！」と表現する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
9月	STEAM 活動 「染み込む」	<p>子どもたちの興味をもとに STEAM 活動で「染み込む」をテーマに活動をする。          キッチンペーパーに水性ペン（茶）で線を描き、コップの水に 100 秒つけて色が広がる様子を観察。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
10月	T シャツ染め	<p>昨年の年長児が運動会に玉ねぎの皮で染めた T シャツを着て運動会に参加していたことを思い出し、子どもたちから自分たちも染めた T シャツを着たいという気持ち生まれる。昨年度も絞りを入っていたことに気が付き、自分たちも挑戦したいとの声があった。          保育者は下準備の豆乳、絞りの道具、染液を準備した。          染め粉での染色液は濃い紫色で白色の T シャツを染める際、黒になっちゃうかも…と心配の声が聞こえてきた。          環境としては、ブルーシートを敷き、その上に染色液のタライ、洗浄用のタライを複数個ずつ用意し、染色した。</p>

		<p>★ドキュメンテーション②に掲載</p> 
11・12月	草木染め	<p>昨年度の玉ねぎの皮染めに憧れがあり、再度染めに挑戦したい気持ちが大きかった。自然豊かな学内にある枇杷の葉を使って染めることを計画。そこで、講師の先生をお招きし、指導していただきながら実践開始。まずは、枇杷の葉を2kg採集、洗浄、刻みまでを子どもたちと行う。煮だしの様子は子どもに知らせながら、保育者が行った。その後の媒染や染色は講師の先生と行った。</p> <p>こんなに大変なの？今着ている服も大変だね…と日常で使用している布製品にも興味が広がっていた。</p> <p>講師の先生のご指導で、鮮やかなピンク色に染まる。</p> <p>★ドキュメンテーション③、④に掲載</p>

★ドキュメンテーション①



桑の実ジュース 🍷  
 プレイパークの桑の木が折れているのを、管理のお兄さんが切ってくれたことがきっかけで、実を摘んでいた子どもたち。  
 手に色が付く…どうしよう🙄と考え、袋に入れることに。あれ？揉んだら色が出る？水を入れてみよう！と発見の連続から生まれた遊びです！

2025.05.19\_2025.05.2



★ドキュメンテーション②

春に始まった、森の実ジュースの時には手が染まり、色水遊びでは手やお洋服が染まり、様々な場面でも染まる、染み込むことを経験した子どもたち。昨年度のさくら組に慣れて、今年度も挑戦しました。

待ち時間の色予想。  
どんな紫になるかな？濃すぎて黒になるかも…と心配もありつつ、結果はいかに？

さあ、ドキドキの染液に投入！！  
「え！？濃いかも」「黒くなりそう…」「染まるかな…」とドキドキワクワクで待っています。割り箸で優しく沈めます…

10分に1回かき混ぜて計40分待ちます

染液を落とす高に揉み洗い…

絞って……一旦「はいチーズ」

材料がたくさん！！こんなに使いました

絞っていたところを外してみると…？どんな模様になるかな？

2025.10.16

★ドキュメンテーション③

①植物園に行って枇杷の葉を調達！！  
みんなの頑張りでなんと2キロを超えました。

②採取した葉を洗浄して乾かす。何百枚洗ったのか…

③実は1番大変な作業。黙々と刻みます。  
細かければ細かいほど色が出るそう！

④布を豆乳に浸し、染液が布に定着しやすくなります。

⑤布の重さの5倍の重さの葉っぱ200gを計量し、納へ。

⑥先生が染液を煮出します。見にくくとも濃度は、くさーい、茶色だ〜と気がつく事がいっぱい！

⑦絞る

⑧紫外線に当てて、発色をよくする

200グラムってどのくらい？218…これは多いの？少ないの？葉っぱを足すのか、減らすのか数字や重さに注目しましたよ

重かき水を押さえて、葉が切れる。落ちた葉を集める、ピニールを広げてあげる子、自然と役割を分担し、交換していました。

これ数めるやつと驚き、色や匂い、感触にも気がつく子どもたち。

ふわふわとツルツル、感触の違いが表と裏とありました。

ハケミで刺した子どもたち、手が震れる、服作りの大変さもな…とつがやがが…

前回の染色に経験済みの作業はお手のもの！今回は材料を増やし、柄を予想しながら作りました。

今回は特別講師、青山優先生をお迎えして、枇杷の葉の草木染めを行いました。プロ…と知った子どもたちは質問が止まりませんでした。何回染めたらプロになれるの？変な色にならないの？紅色はできるの？ハートの形はできるの？などよく考えていたさくら組です。

★ドキュメンテーション④

①下処理した豆乳を軽く流し、布を湿らせる。

②媒染液(今回は灰汁)の中でよく揉む

③媒染液を流し、よく絞る

④染液の中でよく揉む

⑤時間を置く

⑥絞りを繰り返す

⑦染液を洗い流す

⑧紫外線に当てて、発色をよくする

挿んでいる時間はクリスマスソングを歌いながら楽しみましたよ

まだかな？まだかな？と見にくくなる子どもたち。外から帰ってきて、お昼寝前、起きた後にもチェックを欠かせません。わくわくする一方で、茶色かな…濃くなりすぎて黒かも…と心配もありました。

わあ！ピンク色だ！でも濃いピンクだね！と色の感動の次には、涙腺できた！お花だ！火花だ！と柄の違いに大盛り上がり！お友だちと褒め合いです。

今回は特別講師、青山優先生をお迎えして、枇杷の葉の草木染めを行いました。プロ…と知った子どもたちは質問が止まりませんでした。何回染めたらプロになれるの？変な色にならないの？紅色はできるの？ハートの形はできるの？などよく考えていたさくら組です。

## 5. 振り返り・振り返りによって得た先生の気づき

春の散歩で意図しないタイミングや出来事をきっかけに、今回の活動のヒントが得られた。異年齢での関わりの助け合いからも遊びや興味が生まれていた。子どもたちは自分たちの行事ではない時にも異年齢ならではの特色としてよく見ている事、覚えている事が分かった。染めに関しては、5歳児に限定したため子どもたちなりに考えた事を言葉にして質問する姿が多くあった。また、予想→調べる→根拠を見つける→実践→振り返りというようなPDCAサイクルに似たようなことを子どもたちが行っている事に気がつけた。保育者は具体的な指示はせず、興味の広がりそうな材料を子どもたちの目の届く場所に用意する事で子どもたちの興味がより広がったように思う。その気づきに寄り添い一緒に探求した事でより子どもたち視線の楽しさを感じられた。

大人が答えを伝えることは簡単で知識も増えるが、子どもたちがワクワクしながら考え、気がつき、やってみるといった経験や知識は、この時期ならではのものであるように感じるため、そういった機会を奪わないような声掛けが意識できると良いなと気がつけた。